

第58回 企画展

玉井神社・八坂神社の三十六歌仙絵馬



小野小町



日時 平成26年8月10日(日)～9月28日(日)

観覧時間 10:00～18:00 (火曜日休館)

場所 あだたらふるさとホール 展示室

観覧料 無料

記念講演：演題「絵馬の世界」

講師 村川友彦氏 (大玉村文化財保護審議委員)

日時 8月31日(日) 13:30～

場所 あだたらふるさとホール 2F 研修室 ※聴講は無料

お問い合わせ

あだたらふるさとホール

福島県安達郡大玉村玉井字西庵183 ☎0243-48-2569

絵馬と奉納者・絵師・書家について

八坂神社(天王下)の三十六歌仙絵馬 八坂神社 所蔵

玉井神社の三十六歌仙絵馬

玉井神社 所蔵

「三十六歌仙」絵馬は、明治三二年(一八八九)に奉納され、三六点のうち二点が欠落し、現在三四点および奉納銘額一点である。絵馬は絹本に歌人および和歌が描かれ、黒塗りの縁に奉納者名がそれぞれ朱字で記されている。三十六歌仙のうち「中務」の絵馬に「蘿蔔謹画」銘と落款があり、金子蘿蔔の画である。金子は現在の伊達市梁川町に居住した人物で、狩野派の絵を学び明治三年(一八七〇)に梁川に来て屏風や襖絵などを描いたが、とくに養蚕に関する絵を描き「養蚕画家」として知られ、また優れた絵馬も多数残している。

奉納者 鈴木重三郎

奉納者 松井羽右衛門



紀貫之

大伴家持

「三十六歌仙」絵馬は、柿本人麻呂をはじめ歌人と詠歌を杉板に描き、額縁をつけ、飾り金具を施し立派に仕上げている。画家は文岳で大原文林の門下であるといわれ、また、詠歌の書は糠澤直之允である。糠澤は本宮出身で幕末に若くして仙台の葉問屋に奉公し、仙台藩の医官で江戸時代後期の狂歌界の巨人といわれた千柳亭綾彦に師事し、国学と和歌を学び、文久二年(一八六二)本宮に帰郷し、葉種商を営んだ。学者としても名高く、二本松藩の安部井磐根と親交があつた。明治十一年(一八七八)第一回県会議員に選ばれ、また歌人としても活躍し、数多くの作品を詠み、晩年『千檀園歌集』としてまとめられている(山崎清敏「書家、糠澤直之允について」菅野正一編『八坂神社に掲額された三十六歌仙』二〇〇九所収)。

絵馬には奉納年の銘はないが、明治中期とみられる。全三六点のうち一点は額縁を欠損している。なお、「奉納三十六歌撰寄進連名記」の額一点を伴い発願主は菅野小十郎ほか八名、さらに四二名の名前が記されている。



柿本人麻呂



紀貫之